7/8（土）

川床小学校着衣水泳教室
水難事故の対処法を学ぶ

7月8日、川床小学校（黒川周一校長・103人）で全児童を対象とした着衣水泳教室が低・中・高学年の3時限に分けて開催されました。

1校時は中学年の児童が学び、田代裕太郎教諭が最初に「水の事故から命を守る大事な1時間になるので、救命のためにどのような行動をとれば良いのかをしっかり学びましょう」と授業の目的を3・4年の児童らに伝えました。

授業では、着衣泳の体験やペットボトルを使って水面に浮く方法などを学び、尾崎佑匡（うきょう）さん(4年)は「服を着て水に入ったら普段の2倍重かった。ペットボトルで浮くコツは力を抜くこと。万が一の水難事故の際には今日習ったことを生かしたい」と授業から大切なことを学んだ様子でした。

田代先生の話を真剣に聴く児童ら

浮くコツをつかんできた児童

7/9（日）

獅子島地区タイムライン作成
防災減災は事前に

7月9日、獅子島アイランドセンターで、一般財団法人消防防災科学センターによる地域版タイムライン作成研修会が開催されました。

※地域版タイムラインとは、各組織が動きや流れを互いに把握し、個別に活動していた組織をまとめる仕組みづくりです。

研修は、災害時に各組織の連携を深めることを目的に、消防団員や民生委員、婦人会、役場職員などが参加しました。

今回の研修を通して、災害警戒レベルに分けた組織の役割分担を明確にしておくことで、災害時のスムーズな対応が図れ、防災減災につながり、より多くの人を救助できる仕組みが試行版として整いました。

参加した獅子島分団長の小田保彦さん（片側）は「災害時に備えて各組織が一同に集まり、連携を深める良い機会だった。今後の消防団活動に生かしたい」と話しました。

集落ごとにタイムラインを作成

研修会の様子